

市民による平和構築活動の経験と模索 – 現場の現実-

非暴力平和隊日本会員・元現地隊員

徳留 由美

Nonviolent Peaceforce(非暴力平和隊)とは？

- 非暴力平和隊（Nonviolent Peaceforce, NP）は、地域紛争の非暴力的解決を実践するために活動している国際NGO非暴力平和隊は、各地の紛争地にトレーニングを受けた非武装の隊員を派遣し、地元の非暴力・平和団体や人権活動家と協力し、地元活動家や地域住民等に対する脅迫、暴力等を軽減させ、地域紛争が非暴力的に地元の人によって解決できるよう、支援することを目的としています。

歴史

- 2002年12月：NPの設立総会。インドにて発足。
- 2003年6月よりスリランカプロジェクトの準備が始まり、11名のフィールド・ワーカー(Field Worker)が選ばれ、赴任した。
- 2007年5月よりフィリピン・ミンダナオプロジェクトへ先発隊の5名のICP=International Civilian PeaceKeeper「国際市民平和維持活動家」と国内ディレクター1名が赴任する。
- 2010年に入り、南スーダンでの活動を広げる。また、南コーカサスとカザフスタンでの活動に向けての調査・準備を開始する。
- スリランカプロジェクトは2011年末をもって終了。
- 短期派遣で、グアテマラの大統領選挙にて選挙監視を行ったりしている。
- 現在は南スーダンでの活動も広がっている。また、ミャンマーでの活動も始動している。

NPのトレーニング内容

- Mutual Understanding（相互理解）
- Mutual Respect(相互尊敬)
- 研修は現地においての心構え
- 紛争分析・解決や交渉術・安全策（セキュリティ）
- 個々の役割分担・地域住民との交流関係
- 参加者同士による宗教・信仰心について
- 個々のComfort and discomfort zoneについて
- シュミレーション・トレーニング
- その他

NPの方針:Peace in Action

- **Accompany** : 市民活動家、特に脅迫や命の危険に面している市民平和活動家や人権擁護活動家への護衛同行を行います。
- **Presence** : 国際的プレゼンスの提供。非暴力平和隊のフィールド・ワーカーは紛争地帯にある村落や境界線、非武装地帯に「世界の目」として滞在します。これによって武力行使は国際的な非難的となるというメッセージを戦闘者に送ります。また、地域の平和活動や催しが行われる時、要請に応じてスタッフを派遣し「国際プレゼンス」

を提供します。

- **Provide** : 情報発信。非暴力平和隊は、暴力的行為が政治的に受け入れられないような環境をつくることによって暴力を抑止します。「世界中が注目している」ことを徹底する。
- **Monitor** : 暴力の抑止や、紛争を回避するために、現状把握を行います。
- **Connect and Link** : 現地の市民平和活動家やNGO、国際NGO間の橋渡しをします。また関係を築くための場を提供します。～ 紛争当事者間の橋渡しと交渉 - Nonpartisanship=サイドを取らない

活動を通しての目標

- NPの活動地域における暴力の減少
- NPが同行することで、人々が安全に感じてもらう。～Making Space～
- 市民社会団体が彼らの活動を促進する 市民が自分たちの権利を主張できる
- 異なる人種間関係の改善
 - スリランカ:シンハラ・タミル・ムスリム
 - ミンダナオ:クリスチャン・ムスリム
- ネットワークの構築-連携やリンクにより人々への救済を可能にする

Philippine-Mindanao Project

ミンダナオ紛争概略

- 1960年代：モロ民族解放戦線（MNLF = Moro National Liberation Front）形成
- 1970年代のキリスト教至上主義的フィリピン政府の政策に対し、イスラム教徒が反発を強める
- 1980年代：モロ・イスラム解放戦線（MILF = Moro Islamic Liberation Front）形成
- 1990年：イスラム教徒・ミンダナオ自治区（ARMM = Autonomous Region of Muslim Mindanao）設置
- 2006年：ARMM内での国難避難民が約10万人
- 2012年10月7日、フィリピン政府とモロ・イスラム解放戦線（MILF）との間で「枠組み合意」が達成。同月15日に調印された。犠牲者は約12万以上と言われている。

主な紛争当事者

- ◆ フィリピン国軍（GRP）
- ◆ モロ民族解放戦線（Moro National Liberation Front-MNLF）
- ◆ モロ・イスラム解放戦線（Moro Islamic Liberation Front-MILF）

Sri Lanka Project

スリランカ紛争概略

- ◆ 1956年：バンダーラナーヤカ政権による「シンハラ人至上主義」政策により、タミル人への蔑視・迫害が始まる。公用語もシンハラ語となる。
- ◆ 1976年：プラバーカランが指揮するLiberation Tigers of Tamil Eelam（タミル・イーラム解放のトラ）が組織され、タミル人による北部・東部の独立国家形成への武力行動が始まる。
- ◆ 1983年：「黒い7月」
- ◆ 2002年：ノルウェー政府の仲介で停戦合意に至る。
- ◆ 2008年1月2日：スリランカ政府が停戦合意を破棄し、16日に停戦合意が失効。
- ◆ 2008年5月10日：スリランカ東部州議会選挙が行われた。
- ◆ 2009年5月17日：LTTEが敗北宣言・スリランカ政府が勝利宣言を出す。
- ◆ 2010年1月：ラジャパクサ大統領再選。

| | |
|--|--|
| ◆ 異なる民族と宗教 <ul style="list-style-type: none">● 仏教徒（70.0%）● ヒンドゥ教徒（10.0%）● イスラム教徒（8.5%）● ローマン・カトリック教徒（11.3%） | ◆ 言語の違い <ul style="list-style-type: none">● シンハラ語● タミル語● 連結語（英語） |
|--|--|

NPの活動と地域市民との繋がり

- 国連・他団体との連携
 - 「敷居」の低さ
 - 人々の中で生活する
 - Low Profileな活動
 - 「存在」という名の暴力抑止
-
- 市民だからこそ、非武装の市民だからこそできる、コミュニティーに根差し、活動の場を広げることができる可能性。
 - 武器を持たないことが、相手やコミュニティーにとって安心感を与える事ができる。
 - 日本人だから、「日本は他国を攻撃しない国の人だから、信用できる」という現地の人の言葉。
 - 「憲法 9 条」のおかげで、現地で安全に活動することができた一面もある。（もちろん「絶対安全」という言葉は紛争地にはない）
 - 「構造的暴力」を対話や相互理解を通して減らしていくことが「積極的平和」であり、日本政府が掲げている「積極的平和主義」とは全くちがうものである。非武装の市民だからこそ、「積極的平和」の活動を行うことができる。
 - 「積極的」に軍事力を用いて、他国の情勢や紛争へ介入する(政治・経済・産業・宗教等も含め)、ある種の世界貢献主義をうたっている「積極的平和主義」とは、自国民だけではなく他の国の人々の命や平和を脅かす主義であり、危険である。